

専門誌「学校の食事」2025 2月号より 特集「みんなどうしてる？給食費編part2」

給食費について あれこれ思うこと**全国の栄養教諭等の有志の皆さん**

- 給食費が無償化になってから、集金や支払いの業務がなくなって少し楽になったなと思います。しかし、無償化に伴い、給食はただのサービスになってしまったと感じることもあります。給食は生きた教材であると生徒にも保護者にも伝えてはいますが、現実「給食残さずに食べてね」と言った時に、とある生徒から「ただなんだから残したっていいだろ」と言われました。その言葉に衝撃を受けると同時にとても悲しい気持ちになりました。また、入院などで長期欠席する生徒の保護者の一部から、「無償化だから停止届書がなくてもいいですよ？」と聞かれたこともありました。この「ただだから」「無償化だから」という言葉がずっと心の中に引っかかっています。無料なら何をしても自由なのか、給食は無料の昼食サービスと思っている保護者が一定数存在していることへ危機感が少しずつ自分の中で大きくなっています。
- 給食の無償化、無償にしなくてもよいのでは、と思います。家庭の負担を軽減するという考えであれば、半額補助でも十分ではないかと。今後、物価が下がるとは考えられないので、自治体の予算で給食費をまかなっていきことができるのか心配です。給食費を上げられず、現場でのやりくりを強いられるのは正直つらいです。保護者と自治体とで給食費を負担して単価を上げて、献立・栄養価を充実させていくべきだと思います。
- 給食費無償化はありがたいけれど、物価が高騰している現状に合わせた予算を確保してほしいです。前は1食250円で買えた食材が今は買えないので、魚や肉のサイズを小さくしたりデザート回数を減らしたりと、質と量を落とした給食を提供するしかなくなります。給食費とはちょっと違いますが、給食回数も見直してほしいです。年間集金額が変わらないなら回数を減らすしかないと思います。(「学校の食事」2月号より一部抜粋)